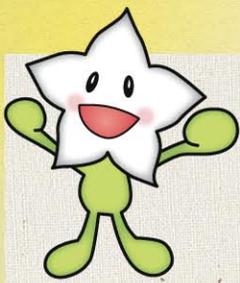




キタミソウ自生地MAP





キタミソウについて

北半球の温帯から亜寒帯にかけて広く分布するゴマノハグサ科の小型の多年草で、国内では北海道・九州および本州では埼玉県東部だけで見られる希少な植物です。

明治時代の中頃、北海道の北見地方で発見されたところから「キタミソウ」と名付けられています。

現在でも生育が確認されているのは、本州では熊本県の江津湖と埼玉県の東部だけで、きわめて変わった植物です。葉は長い柄のあるへら形で、長さ2~5cm、先は円く葉の縁に鋸歯は無くして無毛です。直立した茎はなく葉は根際に生じ、地面を走出枝を出して群生します。花は白色で2.5mm、花径が葉より短いために、花は葉に隠れて目立ちません。図鑑によると6月から10月にかけて開花するとのこと。

行田では、夏は水底に沈む用水縁に生育しているため、初冬と春、年二回、生育・開花しているのが確認されています。

行田の生育地はいずれも夏は水面下に沈み、秋になると水が引く河床で、暑い夏を水面下で過ごすことなどから自生していると考えられます。

しかし、用水縁という限られた微妙な環境に生育しているため、ちょっとした環境の変化によっていつ姿を消してしまうかわからない、貴重な存在でもあります。

(引用・参考 日本の野生植物Ⅲ 平凡社 1980)



写真:キタミソウ(埼玉・行田 馬見塚)

キタミソウを守るために



キタミソウは日本では一部の地域でしか見られない絶滅危惧種ですが、行田市の星川は全国でも最も大きな群生地です。星川のそして行田の自然を象徴するキタミソウを守るため私たちにできることは?

- ◎米作り(農業)がキタミソウを守ってくれます。地産地消を心がけ、地元のお米、農産物を食べましょう。
 - ◎ペット、園芸植物、ブラックバスなど外来植物を捨てないで下さい。
 - ◎ゴミを捨てないで、多くの生き物が住めるきれいな川にしましょう。
 - ◎自然に配慮したまちづくり、川づくりを推奨しましょう。
 - ◎キタミソウなど希少な生き物を採取しないようにしましょう。
- ※観察の時には、あまり踏みつづさないよう気をつけましょう。

発行元



国際ロータリー第2570地区

行田さくらロータリークラブ

〒361-0073 行田市行田5-10スリーハートビル3F

TEL.048-564-3000 FAX.048-564-3020 E-mail/s-rotary@tv.g.ne.jp